

事業番号 3-18 (1) 大型放射光施設 SPring-8

事業番号 3-19 (1) (独) 海洋研究開発機構 (深海地球ドリリング計画)

事業番号 3-19 (2) (独) 海洋研究開発機構 (地球内部ダイナミクス研究)

事業番号 3-34 (2) 衛星打上げ (平成 24 年度以降打上げ分)

事業番号 3-21 若手研究者育成

2009 年 11 月 20 日

日本鉱物科学会 会長 松原 聡

鉱物科学会は、私たちが深く関連する Spring8、深海地球ドリリング計画、地球内部ダイナミクス研究等を始めとする科学技術研究開発事業および各種競争的資金の縮減の仕分け結果を拝見して、以下のような観点からわが国の存亡に関わる重大な危惧を抱くにいたりしましたので、見直していただくよう、強く意見表明します。

1) 事業仕分けでは、大型研究開発プロジェクトが実践的若手研究者の雇用と育成という重要な機能を果たしている点を見落とししています。今回の事業見直しそのまま実行されれば、プロジェクトを実質的に支えている任期付研究員(博士号を持つ若手研究者)が大幅に削減されることとなります。これらのプロジェクトにかかわる任期付き研究員の給与はすべて、研究費から支出されているからです。例えば、事業番号3-19(2)(独)海洋研究開発機構(地球内部ダイナミクス研究)においては、研究費の約65%が任期付きの研究者であり、予算がカットされれば、85名を超える任期付き研究員が失職します。このように世界を先導する優れた成果を挙げ、世界の科学に貢献している優れた実績をもつ研究機関を国際的な専門家の評価なしに、不十分な拙速な査定のもとで予算を停止し、多くの若手研究者を失職させることは、「科学技術創造立国」という我が国の基本理念とそれを実現するための研究者育成政策に反するものであり、見直しを強く求めます。また、特別研究員事業など若手育成事業という科学技術の未来にかかわる根幹の事業を、費用対効果という短期的視点による仕分けすることに強く反対します。

2) 大型研究開発プロジェクト事業の見直しは、財政面も含めて、国際的な専門家による評価を基に慎重に進められるべきものであり、根拠不明な縮減や廃止は、わが国の科学・技術の発展の崩壊を導くこととなります。

特に、3-18(1)大型放射光施設 SPring-8 は、米国の APS、欧州の ESRF とならび世界のこの分野の科学の 3 極の一つとして世界を先導する成果を挙げていま

す。また、事業番号 3-19 (2) (独) 海洋研究開発機構 (地球内部ダイナミクス研究) (I F R E E) は、先端的研究を先導する基礎科学の地球科学のセンターの役割を担ってきました。この I F R E E の研究水準は世界をリードするものであり、我が国を代表する研究組織となつていいます。組織の評価も、基礎研究として世界最高水準の研究機関として世界から認められてきました。

「はやぶさ」「かぐや」など我が国の探査は、日本独自の特徴をもつた世界を先導するユニークな成果を挙げました。事業番号 3-34 (2) 衛星打上げ (平成 24 年度以降打上げ分) は、これまでの優れた日本の惑星探査・天文観測衛星の到達点を引き継ぐ重要な衛星打ち上げ計画であるにもかかわらず大幅に削減されようとしています。

このように世界を先導する優れた成果を挙げ、世界の科学に貢献している優れた実績をもつ研究機関や研究計画を国際的な専門家の評価なしに、不十分な拙速な査定のもとで予算の停止および大幅削減することは、わが国の科学と技術の成果の崩壊をもたらす危険な行為です。以上の理由で、これらの評決の見直しを強く求めます。